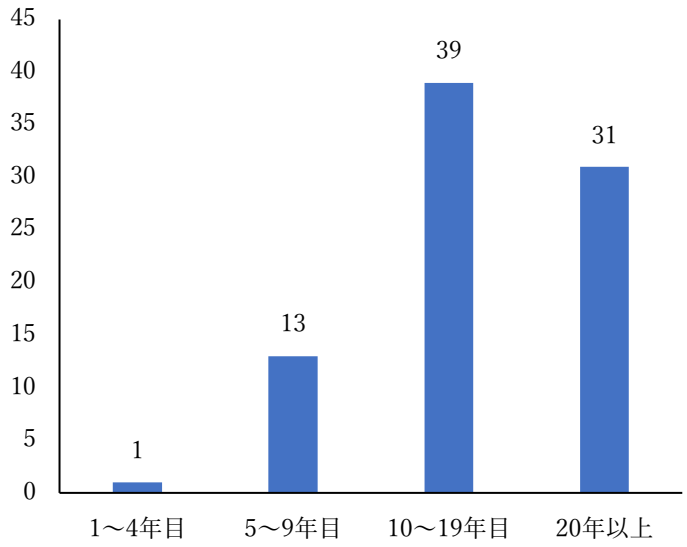
『埼玉県におけるがんリハビリテーションの実態調査』　アンケート結果報告

当委員会では、これまで会員を対象とした研修会や県民に対するに啓発活動を実施して参りました。この度、埼玉県理学療法士会会員に向け、がん患者のリハビリテーションに関する意識調査を行いました。多くの方より回答を頂き、ありがとうございました。今後の研修会やその他の活動に反映させ、会員及び県民に対して活用していきたいと思います。

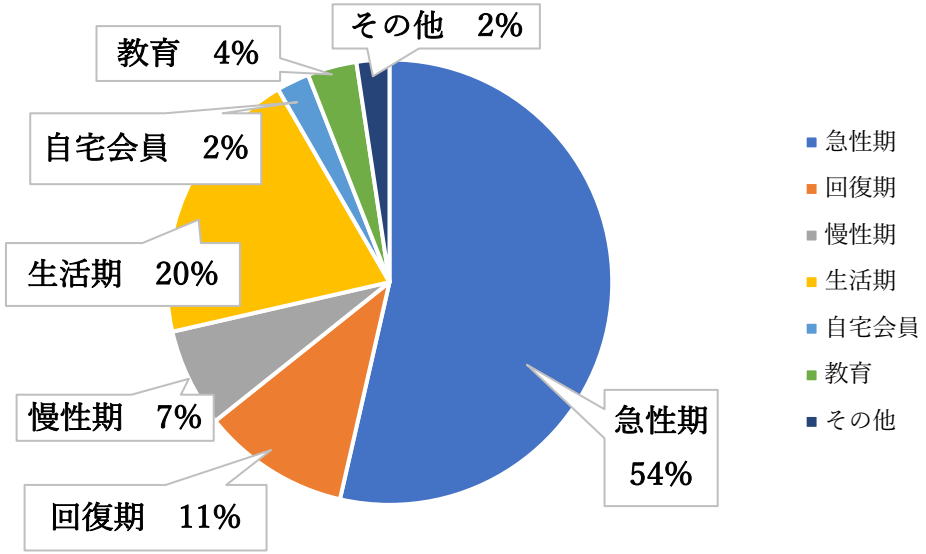
1. 期間：令和 3 年 11 月 22 日(月)　～令和 3 年 12 月 19 日(日)
2. 対象：埼玉県理学療法士会会員
3. 内容：埼玉県におけるがんリハビリテーションの実態調査
4. 回答方法：アンケート方式にて任意にて回答
   ※メルマガ配信および埼玉県理学療法士会ホームページに掲載

＜理学療法の経験年数(〇年目)＞



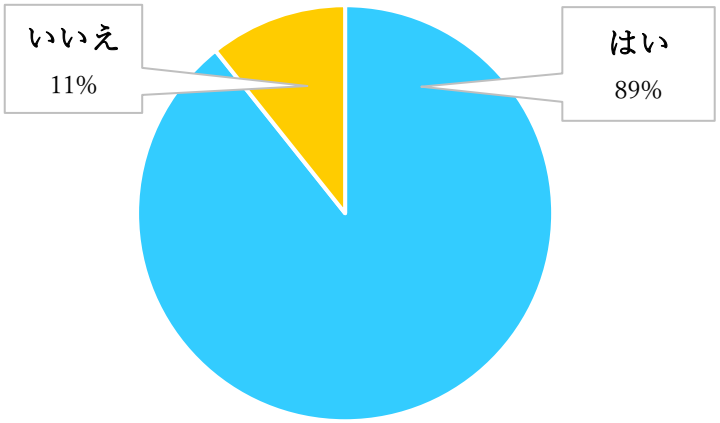
経験年数では、10 年以上の方が 2/3 以上を占め、5 年未満の方はほとんどいなかった。

＜所属先＞



所属先では、急性期が 54%と最も多く、次いで生活期、回復期の順であった。

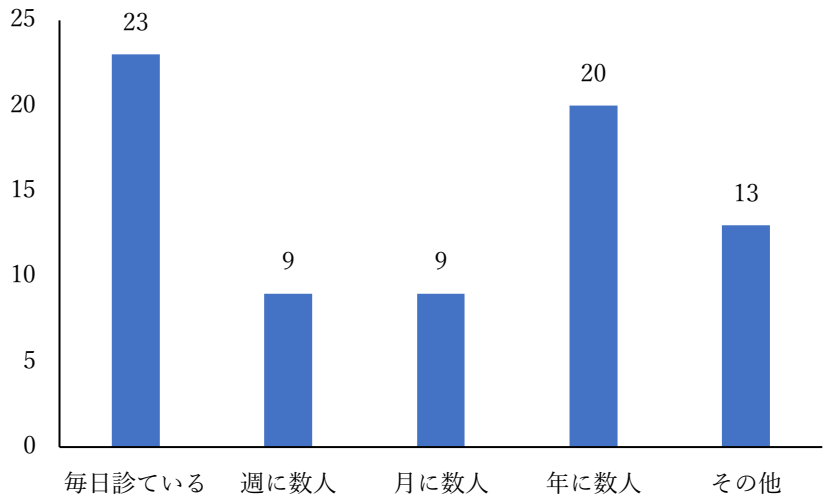
＜がんの方のリハビリテーションに携わったことがありますか＞



がんリハの経験では、関わったことがある方が約 9 割を占めた。

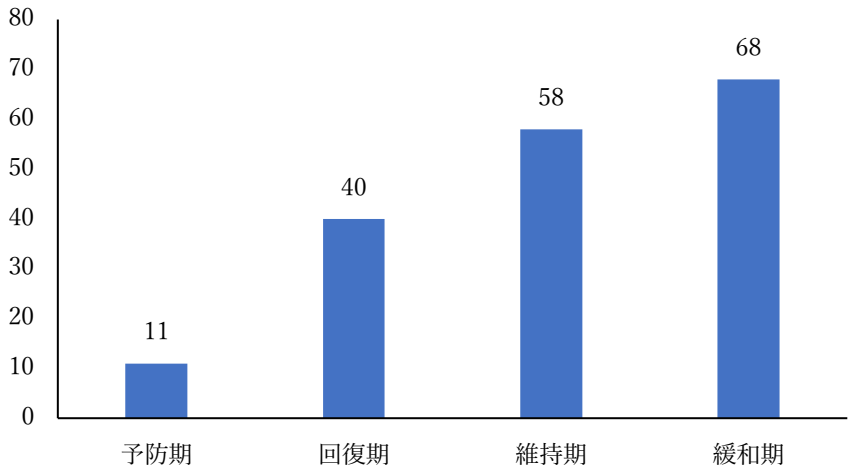
【はい】と回答された方へ

＜がんの方に携わる頻度はどのくらいですか＞



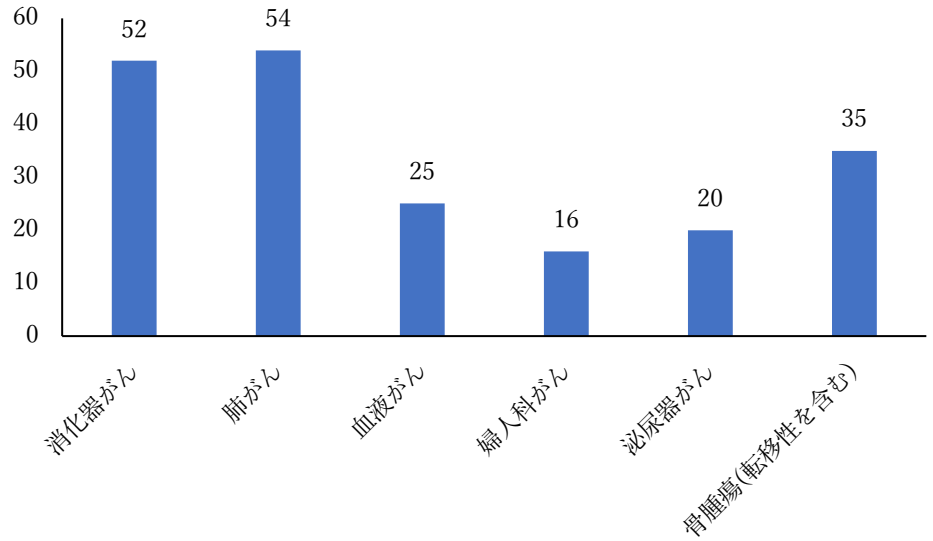
がんの方に携わる頻度では、毎日診ている方と年に数人の方が多い、2 峰性の分布を示した。「その他」では、対象者が入院されていれば毎日だが診ていないときもありバラツキがある、前勤務先等で過去に携わったことがあるが現在は診ていない、などの回答がみられた。

＜どのような時期の方に携わったことがありますか(複数回答可)＞



がんリハに携わった時期については、緩和期が最も多く、次いで維持期、回復期の順であった。回答者の多くは、複数の時期の経験が多いこともわかった。

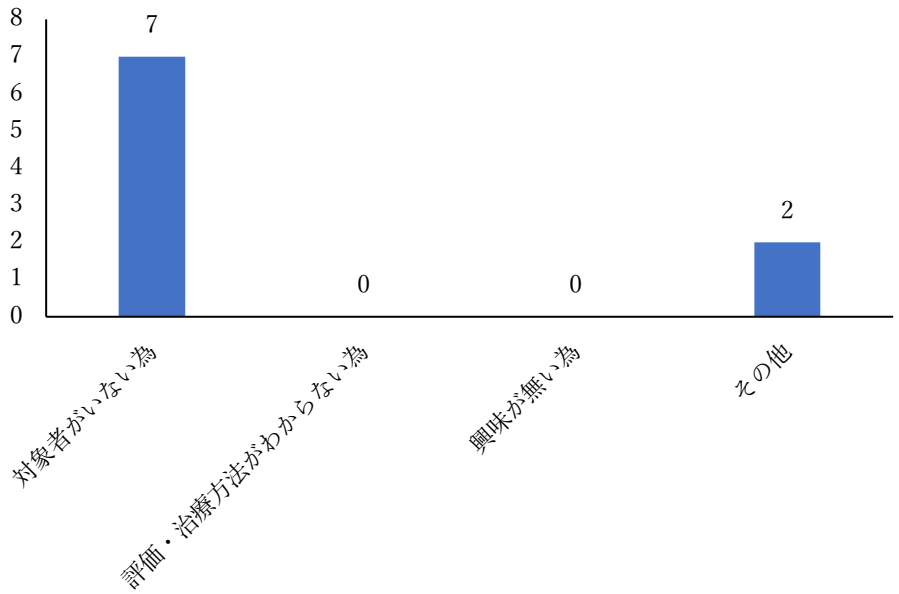
＜どのようながん種の方に携わったことがありますか＞



携わった患者さんのがんの部位については、消化器と肺が多かったが、骨（転移を含む)、血液、婦人科、泌尿器と回答した者もおり、対象部位は幅広いことがわかった。

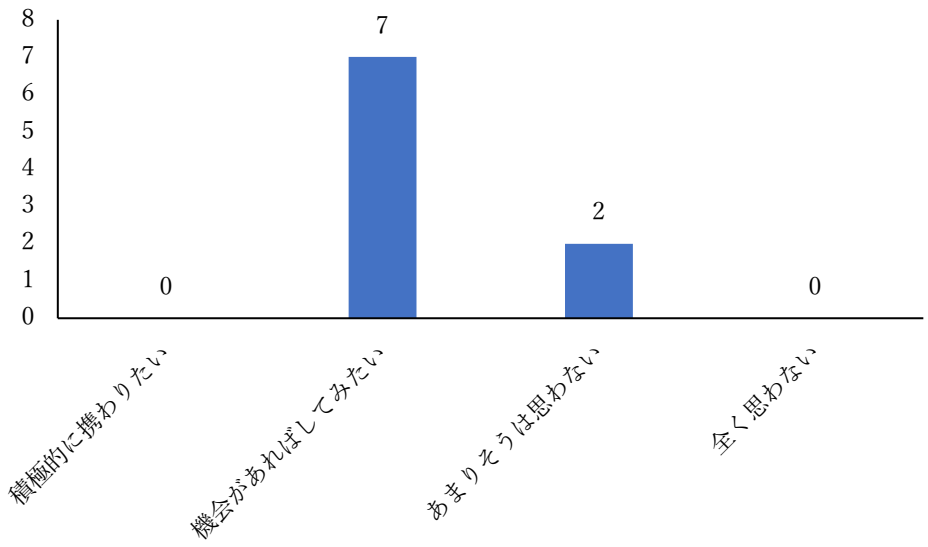
【いいえ】と回答された方へ

＜がんのリハビリテーションに携わったことが無い理由を教えてください＞



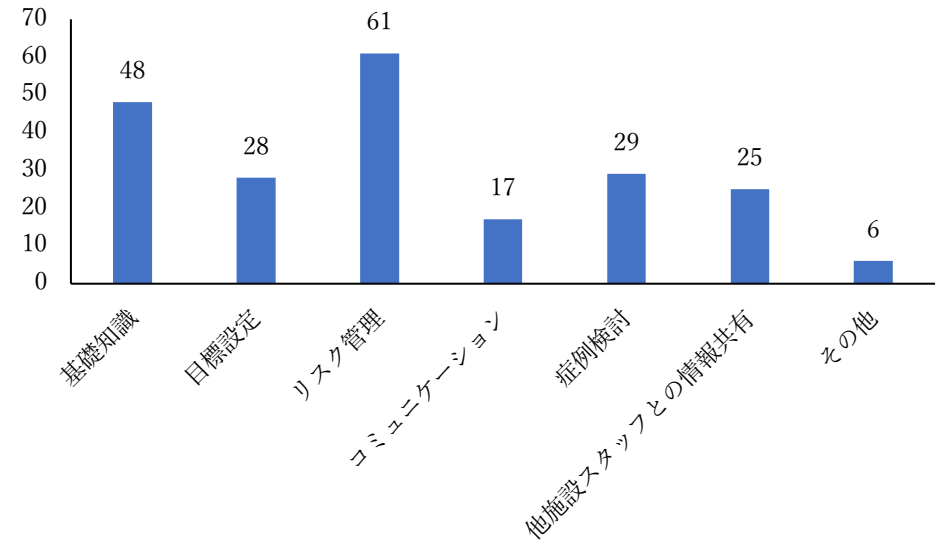
がんのリハの経験がない人に理由を尋ねたところ、対象者がいないと答える人が最も多かった。「その他」では、がんのリハビリテーションの研修を受けていないため携われない、管理職としての関わりのみとの回答であった。

＜今後、がんの方に携わっていきたいと思いますか＞



「がんリハに今後携わりたいか」では、機会があれば携わりたいという回答が多かった。

＜がんについて、どのような研修会があったら参加してみたいですか＞



今後のがんリハの研修内容では、リスク管理が最も多く、基礎知識、症例検討などが続いた。「その他」では医師の参加がなくても診療報酬上のがんリハの研修修了とみなせる研修制度を実現してほしい、がんの治療に関する医学的知識（治療適応，副作用，手術方法・合併症)、がんリハ研修後の知識をどう活用しているかの情報共有、がんリハに携わる職種が一堂に会する学会のような場、悪液質や栄養、患者さんと家族の話などの意見があった。

このような意見を踏まえ、定期的研修会の開催、複数回の開催、事例提示を含めたＱ&Ａ形式など、ニーズに合った開催を企画したいと考えている。